

図書館だより

2008年7月18日発行 2008-2号
名寄市立大学図書館運営・
大学広報委員会
Eメール：library1@nayoro.ac.jp

>>人権・ハラスメント関連ブックフェア<<

ハラスメントのない 安心できる生活と環境を 求めて —互いの人権を尊重して—

日時 7月22日(火)～8月1日(金)
9:00～19:00
場所 図書館本館:展示コーナー

本学人権擁護委員会で企画しているハラスメント防止講座・研修に併せて
図書館本館でブックフェアを開催いたします。
この機会に、是非読んでみてください。

<本学で所蔵している 人権・ハラスメント関連書籍>

- ◎『キャンパス・セクシュアル・ハラスメント：調査・分析・対策』渡辺和子，女性学教育ネットワーク著、石元清英
ほか執筆、啓文社、367.93-W
- ◎『公務員のセクハラ防止マニュアル』金子雅臣 著、ぎょうせい、366.3-K
- ◎『弁護士が教えるセクハラこんなときどうなる：いざというとき困らない傾向と対策、オフィスで、キャンパスで...
衝撃の実態と落とし穴』福島瑞穂 監修、日本文芸社、367.93-F
- ◎『さらば、原告A子：福岡セクシャル・ハラスメント裁判手記』晴野まゆみ 著、海鳥社、324.55-H
- ◆『シルバーハラスメント：長寿社会の“見えない現実”』安藤明夫 著、旬報社、369.26-A
- ◎『セクハラをしない・させない職場の人間関係』関 輝夫 著、ビジネス社、336.4-S
- ◆『施設内虐待：なぜ援助者が虐待に走るのか』市川和彦 著、誠信書房、369.28-I
- ◎『不登校自殺：そのとき親は、学校は—。長男の命を守れなかった父親の手記』木下秀美 編、かもがわ出版、371.42-K
- ◆『臨床に必要な人権と権利擁護 7：人権・権利擁護論』福祉臨床シリーズ編集委員会 編、369.08-F-7
- ◆『ケアマネジャーのための権利擁護実践ガイド』谷川ひとみ、池田恵利子 著、中央法規出版、369.26-T
- ◆『精神障害患者の人権：国際法律家委員会レポート』国際法律家委員会 編、広田伊蘇夫、永野貫太郎 監訳、明石
書店、369.28-K
- ◎『ドメスティック・バイオレンス』戒能民江 著、不磨書房、367.1-K
- ◎『DVにさらされる子どもたち：加害者としての親が家族機能に及ぼす影響』ランディ・バンククロフト、ジェ
イ・G. シルバーマン 著、幾島 幸子 訳、金剛出版、367.3-B
- ◆『シェルター・女たちの危機』かながわ・女のスペース“みずら” 編、明石書店、369.25-K など…。

◎は本館、◆は恵陵館で所蔵しています。現在もパワハラ、ドクハラなど新規の本を追加発注中です。
館内書架、研究室にもまだまだ沢山ありますので探してみてくださいね。VHSもあり、本館で視聴も出来ます。

この本を読もう！！



社会福祉学科
松倉 聡史 先生より

『 憲法第九条 』 岩波新書、小林 直樹 著

岩波書店、1982年6月発行 → B323.142-K、本館、文庫・新書コーナー

「八月十五日」、終戦の日が近づいている。この日は父の誕生日でもある。著者、小林直樹先生は父より一歳若く、学徒動員で戦争体験を経て生還した憲法学者である。私は母校から東大に入った友人をつてに、小林先生の憲法講義を聴講（盗聴）に通った。アメリカ留学後の小林先生は当時としては斬新な横書きの「憲法講義上・下」を出版し、芦部信喜先生と双璧をなす名講義を展開した。驚いたことに受講する学生を講壇に立たせ、長時間の発言や討論になることもあった。著書は序文で「本当の学問をしたい」と言い残して死んだ小林先生のいとこM氏のことや戦友に当てた手紙を引用し、政治に関心をもたずに青春を謳歌する女学生に向けて創造的な世界平和の方途を語ろうとしている。

若き学生時代に憧れを持って貪り読んだこの本は、今も色褪せることのない一冊である。憲法第九条の誕生の背景とともに、再軍備による空洞化、平和憲法を生かす積極的な構想なども盛り込まれている。八十五歳で小林先生は大著「平和憲法と共生六十年」をまとめられた。このような私が奇縁を得て、小林先生から直接に大学院で教えを受けることになったのも望外の喜びである。

* 『平和憲法と共生六十年 憲法第九条の総合的研究に向けて』 小林直樹 著、慈学社出版、2006.3発行、323.142-K、本館、開架

夏期休業中・実習中、「長期貸出」できます！

詳しくはお近くの図書館職員にお尋ねください。
そして、

前期試験前開館延長します！

1時間延長
になります。

7月28日(月)～8月1日(金)

本館・分館ともに

午前9時～午後8時まで開館！！

是非、ご利用下さい。

みんな来
てね！